

第 16 回 日本胸部外科女性医師の会

－活動報告書－

代表世話人

齋藤 綾 (東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科)

世話人

神吉佐智子 (大阪医科薬科大学 心臓血管外科)

山崎祥子 (京都第一赤十字病院 心臓血管外科)

はじめに

今年は、第74回日本胸部外科学会学術集会の第2日目に開催しました。昨年の開催は完全オンラインでしたが、本年は学会の方針もあり、ハイブリッド形式での開催となりました。計画の段階ではCOVID19が猛威を奮っており、直前まで不確定要素が多い中、胸部外科学会の学会事務局、胸部外科学会会長の志水先生のご尽力をいただき、大きな混乱なく会を開催することができました。

本会では、「時代を切り拓く外科医に学ぶ～大変でもいい！必要なのは明るい未来！最高のQOLを求めよう！」と題し、世界をまたにかけてご活躍の藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科の加藤庸子先生、また手術分野に止まらず外科医の活動領域を拡大している東京ベイ・浦安市川医療センター心臓血管外科の田端実先生にお話しいただきました。1時間という限られた時間ではありましたが、大変有意義なセッションとなりました。

日本胸部外科学会事務局、第74回日本胸部外科学会事務局ならびに会頭の志水秀行先生には多大なるご尽力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

第16回

日本胸部外科女性医師の会

時代を切り拓く外科医に学ぶ

大変でもいい！必要なのは明るい未来！最高のQOLを求めよう！

胸部外科の医師は、労働時間が長くQOLが高いとは言えない状況です。
男性・女性問わず、仕事も余暇も含めて人生を楽しむにはどのような環境を整えれば良いのか。
国内で先駆的にタスクシフトやタスクシェアを導入し、有効かつ積極的にご活用されている先生方から、
キャリア形成、ワークライフバランス、若手医師・女性医師支援の方策などのお話もお聞きしましょう。

講師

加藤 庸子 先生

藤田医科大学ばんだね病院
脳神経外科 教授



田端 実 先生

東京ベイ・浦安市川医療センター
心臓血管外科 部長
虎の門病院
循環器センター 特任部長



日程

2021年 **11**月 **1**日(月)

時間

14:00～15:00

会場

第74回日本胸部外科学会定期学術集会 | 会場
(グランドプリンスホテル新高輪)
現地会場+ライブ配信+オンデマンド配信

会費

参加費無料
(学会参加費：医学生・研修医は無料)

主催：日本胸部外科女性医師の会 共催：日本胸部外科学会/日本医師会

概要

- 日 時： 2021年11月1日（月） 14:00～15:00
- 会 場： 会場：第74回日本胸部外科学会定期学術集会 I 会場
（グランドプリンスホテル新高輪）
現地会場+ライブ配信+オンデマンド配信
- 講 師： 加藤 庸子先生
（藤田医科大学ばんだね病院 脳神経外科 教授）
田端 実先生
（東京ベイ・浦安市川医療センター 心臓血管外科部長）
- テーマ： 時代を切り拓く外科医に学ぶ～大変でもいい！必要なのは明るい未来！最高のQOLを求めよう！
- 総合司会： 齋藤 綾先生（東邦大学医療センター佐倉病院心臓血管外科）
司 会： 神吉 佐智子先生（大阪医科薬科大学病院 心臓血管外科）
山崎 祥子先生（京都第一赤十字病院 心臓血管外科）
- 会 費： 無料
- 主 催： 日本胸部外科女性医師の会
共 催： 日本胸部外科学会/日本医師会

講演内容

今回は、時代を切り拓く外科医に学ぶ～大変でもいい！必要なのは明るい未来！最高の QOL を求めよう！というテーマのもと、お二人の講師にご協力いただきました。東京ベイ・浦安市川医療センター心臓血管外科部長、田端実先生と藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科教授、加藤庸子先生にご登壇いただきました。加藤先生はオンラインでのご登壇となり、診療の合間を縫ってのご登壇だったとのことで、スライドが動かず、急遽田端先生を一人目の登壇者にさせていただきました。

お一人目は、東京ベイ・浦安市川医療センター心臓血管外科部長、田端実先生にご講演いただきました。田端先生は、現在までのご自分のキャリア形成を振り返り、どのように目標を立ててどのようにそれに向かって進んできたか、スライドでわかりやすく説明していただきました。おそらく、心臓血管外科医で田端先生のことを知らない人はいないのではないのでしょうか。各方面でご活躍のイメージでしたが、若い頃から、低侵襲治療をライフワークにすることを目標に掲げて、その目標を達成するために留学先を選び、さらに次の留学先、という様になんとかではなく常に目標を達成するために次のステップを選んできたと明言されていました。自分の今の環境に不満を言う前に、やりたいこと、能力を含めた自分のことをきちんと評価して、自分の評価に見合った環境を模索していくことが重要ではないかというメッセージでした。

月曜日が一番好きです、と話されたのには驚愕しましたし、仕事が本当に好きだと言うのが伝わってきました。学会活動や論文活動にも精力的に取り組んでおられる他、YouTube 外科医の先生と対談されたりと常にクリエイティブに、手術のみではなくて心臓外科医の働き方の多様性の様なことにも思考を働かせているのだと感じました。現在の段階では、なかなか一般の枠には当てはまらない超人枠でのお話でしたが、田端先生が道を切り開いてくれることで、これからの心臓血管外科医が目標とする、一つのロールモデルのみではなく色々なロールモデルが派生するきっかけになるのではないかと期待させられるご講演でした。非常に興味深く、勉強になりました。

お二人目は藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科教授、加藤庸子先生にご講演いただきました。加藤先生は非常にご高名な脳神経外科医で、以前にテレビのドキュメンタリー番組などでもお見かけしたことのある先生です。加藤先生が医者になった当時は、女性で脳神経外科を選択したのは加藤先生の

みだという時代で、お父様が外科医で、ご本人はあまり抵抗がなかったのかもしれませんが、道がないところに道を作りながら進んでこられたというのは容易に想像ができます。医者になられたばかりのお若い頃の写真から、最新の脳血管外科の治療の映像まで、豊富な画像を交えてのご講演でした。印象的だったのは、世界中に行って、技術を講義し、手術をされているということでした。世界中の国で顕微鏡に向かって手術されている動画や写真が次々に出てきて、時間の関係もあり全ての画像をフルバージョンで見られなかったのが残念でした。病院が違うだけでも器械が違い、看護師が違い、かなりストレスの様に思いますが、世界中で手術ができる、教えられると言うのはよほど確固たる技術と知識に裏付けられているのだらうと思います。分野は違いますが、胸部外科女性医師として、目標としたい先生を見つけた様に思いました。

現地会場には 22 人の公聴者が来場してくださいました（オンラインの人数は不明です）。今回の学会はかなりタイムスケジュールがしっかりしており、時間厳守で会場を使用したため、過去の会のようにセッションの終了後に写真撮影をしたり、続きのディスカッションをする時間がなかったのは少し残念でした。

おわりに

今回はオンサイトとオンラインのハイブリッドによるセッションとなりました。去年に続き、コロナ禍の最中でやり方を模索しながらの開催となりましたが、学会の方々のご協力があり、スムーズに会の進行ができました。今回も非常に興味深いご講演で、いろいろ質問もあったのですが、ディスカッションの時間がやや短くなったのが心残りだったかと思います。今後、ハイブリッドの利点も目一杯活用し、活発な討論ができる会にしていければと思います。

最後になりましたが、今回無事に第16回目の会を開催するに至り、お世話になった方々へ心より謝辞を申し上げます。

(文責：山崎 祥子)

令和2年から令和3年度会計報告

収入

前年度繰越金	1,087,814
日本医師会支援金(胸部外科学会より入金)	18,700
利息	10
合計	1,106,524

支出

第16回集会開催費用	
講演者謝礼	66,822
切手、封筒	84
チラシ、ポスター費用	3,825
雑費(郵送費)	2,820
ホームページ改正	5,500
レンタルサーバー利用料金	13,200
振り込み手数料	3,300
合計	95,551
次年度繰越金	1,010,973